

【第 10 回ハンセン病グローバル・アピールについて】

～ハンセン病に対するスティグマ（社会的烙印）と差別をなくすために～

日時：2015 年 1 月 27 日（火） 場所：東京都内

日本財団は 40 年来、世界中のハンセン病蔓延国で、ハンセン病の制圧と患者・回復者およびその家族の支援に携わってまいりました。

啓発活動の一環と致しまして、WHO ハンセン病制圧特別大使／日本政府ハンセン病人権啓発大使である日本財団会長笹川陽平の主導により、2006 年より毎年 1 月の最終日曜日の「世界ハンセン病デー」にあわせ、「ハンセン病に対するスティグマ（社会的烙印）と差別をなくすためのグローバル・アピール」を発表してまいりました。

これまでに、ジミー・カーター元米国大統領、ダライ・ラマ師、デスモンド・ツツ大司教、世界各国のハンセン病回復者や国際 NGO、世界の宗教指導者や財界リーダー、世界医師会、国際法曹協会、世界各国の国内人権機関など、各年異なったテーマの人々・機関から賛同を得て発表しております（別添をご参照ください）。

10 年の節目の記念を迎える来年のグローバル・アピール 2015 は、国際看護師協会と各国看護協会の賛同を得て、2015 年 1 月 27 日、東京で発表します。また「今、語られるべきハンセン病問題」をテーマに、インドやブラジルなどハンセン病患者の数が多く約 10 か国より、当事者団体の代表のほか、国際看護師協会、世界保健機関、国連人権高等弁務官事務所、国内ハンセン病療養所の代表らをお招きしパネルディスカッションが行われます。未だ世界で年間 20 万人の方が新たに罹患しているハンセン病問題の現状とハンセン病の歴史を語り継いでいくことの重要性、そして社会の一員としてそれぞれ何ができるかを議論いたします。

【別添】

第1回～9回のグローバルアピールについて

■第1回のグローバル・アピールは、2006年1月に、ジミー・カーター元米国大統領、ダライ・ラマ師、デズモンド・ツツ大司教他、ノーベル平和賞受賞者5名を含む12人の連名でデリー（インド）で発表されました。

■第2回のグローバル・アピール2007は、世界各国のハンセン病回復者代表16人が署名をして、2007年1月にマニラ（フィリピン）で発表されました。

■第3回のグローバル・アピール2008は、2008年1月にロンドン（イギリス）で、アムネスティー・インターナショナルや国際セーブ・ザ・チルドレンなど、人権問題に関心を持ち世界的に活動する9つのNGOの賛同を得て発表されました。

■第4回のグローバル・アピール2009は、キリスト教、イスラム教、仏教、ユダヤ教などの宗教指導者17人が署名をし、2009年1月に再びロンドンで発表されました。

■第5回のグローバル・アピール2010は、世界の財界リーダー15人が署名をし、2010年1月にインド、ムンバイで発表されました。

■第6回のグローバル・アピール2011は、世界64か国、110大学の学長の賛同を得て、2011年1月に北京（中国）で発表されました。

■第7回のグローバル・アピール2012は、世界医師会および50カ国の医師会の賛同を得て、2012年1月にサンパウロ（ブラジル）で発表されました。

■第8回のグローバル・アピール2013は、国際法曹協会および40カ国、1地域から46の法曹協会の賛同を得て、2013年1月にロンドン（イギリス）で発表されました。

■第9回のグローバル・アピール2014は、37カ国、2地域から39の国内人権機関の賛同を得て、2014年1月にジャカルタ（インドネシア）で発表されました。